

1 学校経営計画

I 教育目標

互いを認め合い共に生きていくことを意識し、感動する心を持ち、未来への夢や目標に向かい、強い意志で自らを律しつつ、その実現に努めるとともに、我が国と郷土を愛し、正義感や公正さを重んじ、持続可能な社会の創り手として、たくましく生きる力を身に付けた生徒の育成を図るために次の目標を定める。

1 自主自律「自ら学び考え、自らを律しつつ、主体的に行動する生徒」

⇒ (問題発見・解決能力)

※「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」: 問題を発見し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくこと等

2 相互敬愛「自他の生命を尊重し、相互に高め合う生徒」

⇒ (人間関係形成能力)

※「生きる力」につながる「21世紀型能力」における実践力の中の1つ: 多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど(⇒「学びに向かう力、人間性等」)

※キャリア教育で育成すべき4領域の中の1つ: 「人間関係形成・社会形成能力」= 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

3 意志と実践「夢や目標の実現に向け、強い意志をもち、前向きに実践する生徒」

⇒ (実践力)

※「何かを知っていること」から「何かをできるようになること」へ

※「情報活用の実践力」、「道徳的実践力」、「教科における実践力」、「特別活動における自主的で実践的な態度」等

II 学校経営の理念

狛江二中の良き伝統と校風を継承しながら、時代の変化や地域社会の要請を真摯に受け止め、より充実した狛江二中の教育活動を創造する。

学校は生徒たちにとって、学びの場である。考え方を学び、学び方を学び、生き方を学ぶ場である。それを教え、支え、育てるのが狛江二中の教職員である。教育目標を達成するため、学校経営計画及び教育計画に基づき、すべての教職員がそれぞれの指導力と個性を発揮し、学校教育のあらゆる場や機会を通じて、意図的・計画的・組織的・継続的に教育活動を推進していく。そして、目標(GOAL)に向かって展開するPDCAサイクルに従い、生徒たちが、いかに変容し成長したかという視点で活動の達成度を把握し改善策を練ることで、教育活動をより一層充実させるために、カリキュラム・マネジメントの確立を図る。

Ⅲ 目指す学校像

生徒一人ひとりが目を輝かせ、何事に対しても前向きに活動できる学校

- (1) 落ち着いた学習環境の下、生徒たちが意欲と関心をもって自主的・自発的に取り組むことのできる授業が展開され、確かな学力が確実に身に付く学校
- (2) 生徒たちが主体となり生き生きと活動できる学校行事・生徒会活動・部活動を通して、豊かな心と健やかな体を育む学校
- (3) 3年間の進路学習が計画的に展開され、生徒一人ひとりの進路希望を実現する学校
- (4) 生徒同士や教職員が互いに感謝し合い、互いの「夢」を応援できる、笑顔があふれる学校

Ⅳ 教職員の基本姿勢

- (1) 公教育に携わる者であるという自覚の上、サービスの厳正に努め、市民の信頼に応える。
- (2) 生徒一人ひとりを厳しく見つめ、温かく認め、愛情を込めて導く。
- (3) 保護者・地域の声には、まず耳を傾け、誠意をもって対応する。
- (4) OJTを活性化するとともにキャリアプランに基づいた研修に努め、実力ある専門家としての教師を目指す。
- (5) 職員相互の理解に努め、明るい職員室の中で、協働による実践を進める。
- (6) 進行管理・情報管理・健康管理の「3管理」(セルフコントロール)に努める。
※学校における働き方改革の目的である『教員一人一人の心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事する環境を整備することにより、学校教育の質の維持向上を図る』ことをふまえ、自らの職務について、『できる事』『できる時に』『できる範囲で』という視点で見直し・改善を図る。
- (7) 特別支援教育の視点を持ち、生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、「ユニバーサルデザイン教育」＝「すべての生徒に分かりやすい教育」を進める。

Ⅴ 今年度の重点課題

1 新学習指導要領の完全実施における指導計画と適切な評価活動

新学習指導要領のねらいに沿った指導計画・評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図り、着実に実践していく。

2 GIGAスクール構想の推進、及び、授業と家庭学習のシームレス化

生徒用タブレットを日常的に有効利用できるように整備を進め、授業中の利用だけでなく、学習課題を工夫し、家庭(休み時間・放課後を含む)での学習にも積極的に活用していく。授業と家庭学習が一体となった学習活動(シームレス化)を展開する。

3 コロナ禍における新しい生活様式に即した新たな発想での教育活動の展開

昨年度、新型コロナウイルスの影響で、様々な教育活動に制限がなされ、学校行事も中止となった。徐々に活動の制限が緩和されていく過程で、単に以前のやり方に戻すのではなく、改めて行事等の意義や在り方に着目し、新たな発想を取り入れ、感染防止に努めながら新しい時代に向けた教育活動を展開していく。